

井内先生の退官によせて

広 瀬 比苗子

卒業して早くも8年の歳月が流れここに来てお世話になった先生方が次々と退官されて寂しい思いをしておりました。とりわけ井内先生が退官されると伺った時は、卒論指導で大変お世話になっていただけにその気持ちもひとしおでした。

井内先生はいつもピンと姿勢が正しくその英国紳士を思わせるスラリとした容貌とさらにはそのご専門が都市地理学ということもあって、『ハイカラな教授』という印象を受けておりました。『地理学』というものがどういふものなのか全く知識のないまま学科を選んで入学していた私は、先生から地理学が自然と人文の集合の交わりにあたる学問であること、これからの世の中で必要とされている分野であるにもかかわらず社会的認識がまだまだ低いことを教えて頂き、不謹慎にも『これは我ながらいい学科を選んだものだ』と思ったものでした。そして元来都市計画や都市における住環境に関心があったので、先生にお目にかかってすぐにゼミや卒論のご指導をお願いしたいと思いました。

先生は几帳面なご性格な上、非常に物事を論理的にお考えになるのでその授業は大変わかりやすく、合間に話して下さる学生時代や留学時代のお話、時々見せて下さるスライドは大変興味深いものがありました。今思い返せば、当時の私は共通1次世代によく言われるように、授業に臨む姿勢が高校生の延長のように常に受け身で授業に出席してノートをとっていただけだったように思います。巡検には、そういう学生の受動的姿勢を能動的なものに変え本来の大学での学び方に導いてくれる橋渡しの役割もあったと思います。私達は先生のご指導のもとに、多摩ニュータウンと仙台で巡検を行いました。仙台では県庁や市役所での行政サイドの話、ニュータウンの様子、その影響を受けた近郊農家での聞き取り調査と内容も盛り沢山で、緑溢れる美しい町並みとともにとても心に残る巡検となっています。私達も巡検に慣れてきたところではありましたが、先生の無理・無駄のない綿密なスケジュールのおかげで非常にス

ムーズにこの巡検を終えることができました。先生はカラオケや飲み屋というよりはアフタヌーンティーというイメージがありますが、巡検の宿泊先でも学生とドンチャカ飲み明かすということはあまりなく、どちらかといえば私達の自由にさせて下さいました。そんなこともあり、卒論のご指導を頂くまでは先生と個人的なお話をする機会は少なかったように思います。しかし4年生になって迷うことなく先生にご指導をお願いするようになってからは、区役所やフィールドに同行して頂いた際などご家族のお話や留学のお話を伺うことができ、教室では拝見できない先生の一面を知ることができました。

卒論で私は都市における緑地をテーマに選びましたが、先生はこちらが方針や手法に迷っていると常に簡潔・的確なアドバイスを下さいました。特に、航空写真を使った緑地量の測定やアンケート調査など、初めての手法を経験することができ貴重な体験となりました。その後企業に就職してからも仕事の上で卒論を通して学んだデータの分析の仕方、図表の作成、まとめ方などが大変役立ちました。就職試験の面接では『地理科』と言うときまって怪訝な顔をされ、先生が平日頃おっしゃっていた社会的認識の低さを嫌というほど味わいましたが、実際仕事をしてみてこれほど役にたったのですから企業の人事担当者には認識を改めてもらいたいと思います。

私事で恐縮ですが、就職の際ほんのお礼にと先生に靴下を差し上げたことがありました。ずっと前のことで私もすっかり忘れていたのですが、数年前に先生からその靴下を使わずに持っていらっしやると伺い、一見クールな先生の内にある教え子への温かいお気持ちに大変感動致しました。

最後になりましたが、これからもご健康に留意されつつ今までお時間が無くてできなかった研究、趣味に益々充実した日々をお送り下さい。先生の長い教鞭生活の中で数年ではありましたがご指導頂けたことを感謝致します。(33回生)